Ⅳ－3　航海中の船員の生活行動について

— とくに自由時間の使い方 —

目　　次

A　調査の目的と調査項目…… 84
B　調査の対象と調査の概要…… 84
C　集計の手順…… 84
D　結果について
1. 航海中の余暇の使い方の実態について…… 85
2. 航海中の余暇の使い方の希望について…… 86
3. 船員の航海中と陸員の平日との比較…… 86
4. 年令別余暇のすごし方—実態—… 87
5. 種目別結果…… 87
E　考　　察…… 91
F　今後の課題…… 92
G　おわりに…… 94

A　調査の目的と調査項目

余暇が1日のうちでどれ位の割合を示すかその時間的な長さ等についてはさておき，ここでは主として航海中に船員が労働，睡眠，食事以外の時間をどのようにすごしているか，また何をしたいと希望しているかを明らかにすることを目的とした調査を行った。

調査の種目は余暇に行われる可能性のある種目（日本人もしくは外国人に）のうち，35種目をとり出し，それらをすべて独立して扱かった。

B　調査の対象と調査項目

調査の対象は外国航路に乗船し勤務している船員とし，外航労務協会加盟の21社の船について，会社別，船種別，航路別に抽出した60隻についてアンケート調査を行った。アンケート用紙の配布は1970年8月に行ない，回収を1971年3月に締切った。回収率は91.7%であり，有効調査測定人数は職員450名，部員840名であった。

また対照群として某大手船会社の陸上勤務の社員について調査を行った。アンケート用紙の配布は1971年3月に行ない，同月に回収した。有効測定人数は277名であった。なお陸員は20才以下と55才以上の人が回答者の中にいなかったことを附記しておく。

C　集計の手順

船員を職員と部員にわけ，それらを5才区切りの年令層にわけ集計を行なった。陸員の年令層も同様である。

調査人数は第1表のとおりである。なお，調査人数としては，船員の15～19才に職員3

第1表　測定人数

単位・人

	職員	部員	陸員
15～19才	(　3)	(110)	(　0)
20～24	70	155	11
25～29	107	109	40
30～34	66	114	57
35～39	49	160	71
40～44	74	187	50
45～49	53	60	36
50～54	11	32	12
55～	20	23	(　0)
計	450	840	277

名，部員１１０名の回答があったが，今回は他群と比較検討する都合上，それらの結果についてはふれなかった。

D　結果について

1.　航海中の余暇の使い方の実態について

調査した３５種目を，１人で実施されることが多い種目２２種目と２人以上で実施される場合が多い種目１３種目にわけてみると第２表のごとくになる。第２表中のこれらの種目について，現在のところ航海中実施不可能なものに×印をつけると，実施可能な種目が減り，１人で実施する場合が多いものについては１４種目，２人以上で実施する場合が多いものについてはわずか３種目しか残らない。このことから，航海中には，船員は余暇時間を他の人といっしょ

第２表　調査種目

１人で実施する場合が多いもの（２２種目）		２人以上で実施する場合が多いもの（１３種目）	
◉ 読　書		観光旅行	×
◉ ラジオ・テレビ		ハイキング	×
◉ ごろ寝（休息）		ダンス	×
◉ 音　楽		バスケットボール	×
園　芸		ソフトボール	×
魚つり	×	テニス	×
工　芸		◎ 卓　球	
演　劇		バレーボール	×
乗　馬	×	バドミントン	
自転車		子供の相手	×
スケート	×	ヨット	×
狩　猟	×	ハンドボール	×
ボーリング	×	◎ おしゃべり（雑談）	
◉ 水　泳	×		
◉ ゴルフ（練習を含む）			
アーチェリー	×		
器械体操			
◎ 軽い体操			
アクアラング	×		
◎ 散　歩			
ボディビルディング			
マラソン			

うち◎印は今回考察を行った。

×印は航海中，実施不可能なもの。

にすごす可能性が少ないことが推察できる。今回は，これらの航海中実施可能の種目のうち，著るしく実施者ならびに希望者の少なかった，「園芸」，「工芸」，「演劇」，「自転車」，「器械体操」，「ボディビルディング」，「マラソン」，「バドミントン」を除き，次の9種目を主として述べていく。

読　書
ラジオ，テレビ
ごろ寝（休息）
音　楽
おしゃべり（雑談）
ゴルフ（練習を含む）
軽い体操
散　歩
卓　球

なお，結果の分析上，前者5種目を便宜上〔運動以外の種目〕，後者4種目を〔運動の種目〕とよぶことにする。

航海中の余暇時間には職員，部員ともに，「読書」が一番多く約8割の人があげている。次いで「ごろ寝（休息）」が約4割あがっている。「ラジオ，（テレビ）」，「音楽」，「おしゃべり（雑談）」は約2割前後であり，職員，部員ともにほとんど差がない。運動の種目では全体的に職員の方の実施者が多く，特に，「ゴルフ」は職員の比率にくらべて部員は少ない。職員は「軽い体操」，「ゴルフ」，「散歩」が多く，部員はこれら以外に「卓球」もあげている。

2.　航海中の余暇の使い方の希望について

航海中にどのような種目を実施したいと考えているか，希望については，1でのべた種目以外に「水泳」があがってくる。運動以外の種目では，「読書」，「ラジオ，（テレビ）」の希望が多い。運動の種目では「ゴルフ」，「軽い体操」の他に，「水泳」と「卓球」が希望されている。この「水泳」と「卓球」は現在の実施者が少ないにもわわをらずそれを上まわり，積極的に希望されている種目である。

3.　船員の航海中と陸員の平日との比較

船員の航海中と陸員の平日とを比較することはもともと意味のないことかもしれない。しかし，船員は航海中の生活が一年のうち一番大きな割合をしめており，一方，陸員にとっては，一年のうち，休暇や休日に比して平日が一番大きな割合をしめている。そこでその実態の違いが，船員と陸員の平常状態の違いといえなくもないので，のべてみる。そして考えるべきことは，この違いが出ることが既に問題を提起していることである。なぜ違いが出るのか，改善の余地はないのか，また陸員の状態はこれでよいのか，これらのことは今後の問題に残し，次に結果を簡単にのべてみる。

運動以外の種目では船員は「読書」，「ごろ寝（休息）」，が多いのに比して，陸員は「ラジオ，テレビ」，「読書」が多い。運動の種目では，陸員は「軽い体操」以外に平日はあまり運動をしていない。平日の運動は陸員よりも職員の方が多く実施している。次に余暇のすごし方の希望をみると，余暇のすごし方の実態でみられたほど，船員と陸員という差はみられなく，むしろ，「読書」，「ゴルフ」は職員と陸員が多くのぞみ，「水泳」は職員が多く希望しているというふうに，職員，部員，陸員という三群が各々浮かび出てくることが特徴である。職員と部員は希望では一群に船員とまとめられないのに，なぜ，実態ではまとめられるのか，その

原因の追求と解決こそが今後の課題であろう。

4. 年令別余暇のすごし方 ― 実態 ―

すべての年令層において，「読書」と「ごろ寝（休息）」は多くの人があげているので，この2種目以外の各年令別特徴をみてみる（第3表）。

２５～２４才では「音楽」をあげる人が多い。

２５～２９才では「おしゃべり（雑談）」が多い。運動の種目では「卓球」が他年令層にくらべて多い。

３０～３４才では，「おしゃべり（雑談）」が多い。運動の種目では「ゴルフ」と「軽い体操」を実施している人が徐々にふえてきている。

３５～３９才では，職員の「ゴルフ」と「軽い体操」がますますふえてきている。

４０～４４才では職員の「ゴルフ」が多い。

４５～４９才では「ラジオ・（テレビ）」が多くなり，運動も職員の「ゴルフ」と職員，部員の「軽い体操」が多い。また「散歩」も多くなっている。

５０才以上では職員は，「軽い体操」を約5割の人が，「ゴルフ」を3.5割の人が，散歩を2割の人が実施しており，運動が一番活発である。しかし部員は「軽い体操」以外は活発ではない。

また希望については第4表に示すごとくであるが，これについては次の種目別分析において，ふれるのでここでは省略する。

5. 種目別結果

次に種目別に実態を希望とその年令的特徴を加味しながらのべてみる。なお，１９６４年に我々が行った調査（船内体育の実態と背景について：海上労働調査報告第１７集）と比較しながらのべる。

① 読　書：

船員は航海中「本をよむ」人が多く，8割以上の人が「読書」している。「１９６４年」も同様の割合をしめしている。陸員では平日よりも休日の方が多い。陸員は３９才以下の層で希望者が多いのに対し，職員は４０才以上の層で希望者が多くなる。部員は「読書」の希望が少ない。なお今回の調査では明らかにならなかったが，「読書」の目的が「勉学的・学究的」な場合といわゆる「娯楽的」な場合との比率は某社の調査（船内余暇時間調査：ジャパンライン船員部，Ｓ４５）では職員２０：１３，部員7：9である。今後は積みこみ雑誌について，実際の「読書」と「読書」の希望との調査研究が必要であろう。

② ラジオ・テレビ：

船員は停泊時と休暇中に，陸員は休日に「ラジオ・テレビ」をみたり聞いたりしている人が多い。休暇中や休日ではその割合の少ない年令層でも5割前後，多いところでは8割が「ラジオ・テレビ」をあげており，「１９６４年」もほとんど同じ割合をしめしている。しかし「ラジオ・テレビ」を希望している人は少なく，計画的にではなく結果的に「ラジオ・テレビ」をみたり聞いたりすることが多いと推察できる。今後は航海中のビデオの利用がさかんになると思われるが，その時も「読書」の項と同じくビデオテープの内容に関する調査・研究が必要である。

③ ごろ寝（休息）：

船員の航海中は4割～5割の人が「ごろ寝（休息）」をしている。陸員は平日の実施率は3割以下と低く，平日よりもむしろ休日に「ごろ寝（休息）」をあげる人が多く，２５～２９

第3表　航海中の余暇のすごし方（運動の種目以外）　―　実態　―

複数回答　単位％（陸員は平日）100％は表1の測定人数

		読書	ラジオテレビ	ごろ寝	音楽	おしゃべり	ゴルフ	散歩	軽体操	卓球
20～24才	職員	95.7	18.5	54.2	52.8	27.1	20.0	0.0	27.1	2.8
	部員	82.5	8.3	41.9	45.8	29.0	5.1	5.1	20.0	7.0
	陸員	72.7	73.0	27.2	27.2	27.2	0.0	0.0	18.1	0.0
25～29	職員	86.9	11.2	45.7	27.1	27.1	17.7	1.8	26.1	7.4
	部員	77.0	12.8	40.3	32.1	23.8	7.3	1.8	11.1	6.4
	陸員	50.0	65.0	17.5	25.0	5.0	2.5	5.0	2.5	2.5
30～34	職員	80.3	12.1	46.9	21.2	24.2	16.6	6.0	33.3	6.0
	部員	80.6	11.7	47.8	26.0	21.8	8.4	3.3	22.6	7.5
	陸員	56.1	77.1	22.8	14.0	5.2	3.5	7.0	10.5	0.0
35～39	職員	83.6	14.2	42.8	18.3	18.3	26.5	10.2	42.8	2.0
	部員	78.1	12.5	29.3	18.7	13.7	8.7	3.1	22.5	5.6
	陸員	33.8	59.1	16.9	7.0	0.0	4.2	4.2	15.4	0.0
40～44	職員	93.2	14.8	47.8	17.5	18.9	31.0	9.4	45.9	2.7
	部員	83.9	12.8	47.0	11.2	16.0	8.5	3.7	22.9	0.0
	陸員	28.0	54.0	20.0	4.0	8.0	8.0	8.0	14.0	0.0
45～49	職員	86.7	18.8	37.7	22.6	26.4	35.8	11.3	35.8	3.7
	部員	78.3	20.0	40.0	18.3	13.3	6.6	3.3	25.0	0.0
	陸員	30.5	50.0	8.3	2.7	2.7	8.3	8.3	8.3	0.0
50～54	職員	90.9	272	27.2	18.1	18.1	36.3	18.1	45.4	0.0
	部員	75.0	12.5	25.0	6.2	15.6	0.0	0.0	21.8	0.0
	陸員	75.0	91.6	25.0	33.3	8.3	16.6	33.3	25.0	0.0
55～	職員	95.0	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0	15.0	50.0	0.0
	部員	73.9	21.7	30.4	13.0	4.3	4.3	4.3	30.4	4.3

第4表　航海中の余暇のすごし方　— 希望 —

複数回答　単位％（陸員は平日）100％は表1の測定人数

		読書	ラジオテレビ	ごろ寝	音楽	おしゃべり	ゴルフ	散歩	軽体操	水泳	卓球
20〜24才	職員	27.1	28.5	12.8	21.4	1.4	10.0	0.0	12.8	11.4	8.5
	部員	14.1	21.2	10.3	12.9	5.1	3.2	1.9	9.0	3.2	10.9
	陸員	54.5	36.3	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	0.0	0.0
25〜29	職員	20.5	9.3	8.4	13.0	2.8	9.3	0.9	8.4	11.2	7.4
	部員	12.8	21.1	5.5	11.0	2.7	2.7	0.9	8.2	4.5	11.0
	陸員	22.5	5.0	7.5	7.5	0.0	2.5	5.0	10.0	7.5	2.5
30〜34	職員	27.2	19.6	9.0	22.7	9.0	12.1	4.5	21.2	12.1	13.6
	部員	18.4	21.0	6.7	10.0	4.2	6.7	0.8	9.2	5.8	15.9
	陸員	36.8	8.3	10.5	14.0	0.0	12.2	3.5	10.5	3.5	5.2
35〜39	職員	24.4	30.6	18.3	12.2	6.1	6.1	8.1	16.3	12.2	14.2
	部員	13.1	12.5	3.7	3.1	1.8	2.5	0.0	4.3	3.7	10.0
	陸員	33.8	11.2	7.0	11.6	1.4	11.2	5.6	9.8	1.4	2.8
40〜44	職員	37.8	29.7	9.4	12.1	2.7	14.8	8.1	22.9	6.7	13.5
	部員	9.0	12.8	2.1	3.2	1.7	1.6	1.0	4.2	0.5	3.7
	陸員	16.0	12.0	6.0	2.1	0.0	8.0	6.0	12.0	8.0	0.0
45〜49	職員	28.3	15.0	7.5	16.9	9.4	11.3	3.7	15.0	3.7	3.7
	部員	10.0	11.6	5.0	3.3	3.3	5.0	0.0	18.3	0.0	0.0
	陸員	16.6	8.3	0.0	2.7	0.0	11.1	13.8	25.0	8.3	0.0
50〜54	職員	45.4	27.2	0.0	9.0	0.0	27.2	18.1	36.3	0.0	0.0
	部員	15.6	6.2	6.2	6.2	0.0	0.0	0.0	9.3	3.1	3.1
	陸員	25.0	25.0	16.6	8.3	0.0	8.3	16.6	8.3	16.6	0.0
55〜	職員	35.0	20.0	15.0	0.0	0.0	10.0	15.0	15.0	0.0	10.0
	部員	8.6	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3

才では6割以上の人があげている。体が疲れているので「ごろ寝（休息）」をしている人はともかくとしても，他にすることがなかったので「ごろ寝（休息）」をしている人も相当数あると考えられ，これらの人に対しては，より魅力のある余暇のすごし方の示唆が有効であろう。

④ 音　楽：

２０～２４才は船員は，音楽をあげる人が他年令層にくらべて多く３割以上ある。２５才以上は船員，陸員ともに何らかの音楽に興味をもっているのはそれぞれ2割前後である。この傾向は「１９６４年」と同様である。「する音楽」と「聴く音楽」の区別は今回はわけられなかったが，某社の調査（船内余暇時間調査：ジャパンライン船員部，S４５）では1：6であり，今後は「する音楽」を楽しむ層がふえていくと推察できる。

⑤ おしゃべり（雑談）：

陸員にくらべて船員は特に航海中，「おしゃべり（雑談）」をあげる人が多く，２割前後ある。しかし「１９６４年」ではその割合が４割前後あったのにくらべると減っている。船の合理化にともなう定員減少と個室の完備への対策等が，船内での「おしゃべり（雑談）」を減少させていることに，無関係とはいえないと推察できる。しかし，「おしゃべり（雑談）」を余暇時間に希望している人は船員，陸員ともに少なく，「おしゃべり（雑談）」は余暇時間をすごしてみて，結果的に「おしゃべり」をしていたということが推察できる。

⑥ ゴルフ：

職員は航海中，停泊時，休暇中に「ゴルフ」をしている人が多く，特に４０才以上は３割以上と多い。部員は職員，陸員より少ない。今回対象となった陸員は会社がゴルフ練習場をもっている程（と解釈できるが），ゴルフを実施している人が多く，特に休日では一番少ない２０～２４才でも２割の実施があり，年令層が高くなるにしたがって多くなり，４０～４４才では６割の人が「ゴルフ」を実施している。「1964年」でもやはり，同様の傾向を示している。なお全国の市町村におけるゴルフ団体の設置率はわずか5.4％，会員数は３万名たらずである（社会体育実態調査結果から：粂野豊　体育の科学１９７０.7.p４５２～）。「ゴルフ」が船員に好まれ，かつ推せんできる種目であることと，陸員にも好まれている種目であることについては「１９６４年」にのべたが，今回も船員にもまして陸員に多いことを特記しておく。

⑦ 散　歩：

船員の休暇中，陸員の休日の実施が多い。34才以下では４割にみたないが，３５才以上になると船員，陸員ともに５割前後の人が散歩をしている。しかし希望者は少ない。

⑧ 軽い体操

航海中に実施されている割合が，運動の中では一番高い種目である。陸員に対して船員は航海中の実施が多く，特に職員は３０才以上で３割以上の人があげており，この割合は「１９６４」とほぼ同様である。多くの年令層で職員は部員の２倍の実施率がある。

⑨ 水　泳：

休暇中，休日の希望者が多い。その割合は職員と陸員に比して部員が少ない。なお陸員は40才以上になると休日の希望が4割以上にもなる。航海中に実施したいという希望が船員の各年令層においてあるが，特に職員が多く希望している種目である。船にプールの設置がほとんどな

い現在においてこれほど望まれていることは，今後の対策に考慮すべきであろう。

⑩ 卓 球：

実施されている割合は少ないが，船員の航海中に希望者が多い。「卓球」は，現在実施されている割合が大変低いにもかかわらず，希望されている種目であり，かつ部員が積極的にのぞんでいる種目である。卓球はただ"台"だけあればできるというものではないので，卓球室もしくは体育室を船に設置することとして今後考えていく必要があろう。

E 考 察

以上の結果を，船員は航海中，停泊時，休暇中，陸員は平日，休日にわけ，まとめてみると次のごとくになる。

運動以外の種目では，航海中に職員は部員とともに「読書」「ごろ寝（休息）」「音楽」「おしゃべり（雑談）」ですごしている人が多い。しかしこれらをわざわざ希望している人は実施している人の割合にくらべて少ない。これらの種目と内容とから船員は余暇時間を『意図なくしてこれらの種目ですごしてしまった』ということが推察できる。

運動の種目についていうと，1964年（船内体育の実態と背景について：海上労働調査報告第17集）にくらべ，1971年には航海中の余暇時間全体に対する運動の割合が10倍に増加している。しかし全体には，わずか余暇時間の5％である。この時間に，職員は「ゴルフ」「軽い体操」の実施が多く，「軽い体操」「水泳」「卓球」を希望している人が多い。部員は「軽い体操」を実施している人が多く，「卓球」を希望している人が多い（第5表参照）。

第5表 運動の実施種目と希望種目

	職員			部員			陸員	
	航海中	停泊時	休暇中	航海中	停泊時	休暇中	平日	休日
ゴルフ	●	●	●					●
散歩			●			●		●
軽い体操	●			●				
水泳	◌		◌	◌				◌
ハイキング		◌	◌		◌	◌		◌
卓球	◌			◌				
魚つり		●	●		●	●		●
ボーリング		●	●		●	●		

但し ● 実施 ◌ 希望

このように，航海中には，船員の運動は実施種目も希望種目も限られており，単調になりやすいことがわかる。しかし，前述した『運動以外の種目』では，実施者にくらべ希望している人の数が少なかったのに対し，『運動の種目』の場合には，「水泳」「卓球」では，実施者よりも希望者が多く，余暇時間を，より積極的に使おうとする意欲の一端が推察できる。

以上のことから，船員は航海中の余暇を計画的に使っているとはいえないことが推察できた。もちろん航海中は，仕事が突発的におこることもあろうし，仕事自体が他律的なことが多いこともあげられるし，停泊時にはそれにもまして，予定通りに船が運航されなかったり，荷役が遅れたりすることも起るであろう。しかし，計画的に何かを実施するということは，少なくとも余暇時間そのものが1日わずか4割程度であっても（船員労働の構造変化とそれにともなう労務管理の見通しに関する調査報告書（下），海

上労働科学研究所 p１９），自律的になるという大きな意味をもっている。そこで，余暇時間に船員がみずから何かを計画する時の，計画をたてやすくするという方面での対策が，今後は必要であろう。

また，今回対象となった船は，第６表のごとく，つみこみ運動用具をもっていたが，今回の調査でみられるかぎり，その実施率と希望率との関係から，今後有効な航海中の余暇活動の種目は，「ゴルフ」「卓球」「水泳」「軽い体操」であるといえよう。

第６表　備えつけ運動用具

船種	調査隻数	デッキゴルフ	野球	バドミントン	卓球	エキスパンダー	なわとび	わなげ	ゴルフ道具	鉄アレイ	ソフトボール	腹筋台	ドッチボール	その他	計
貨物船	25	9	24	8	4	6	1	6	2	4	3	3	2	その他４（バレーボール，パンチ，バーベル	76
専用船	13	2	8	3	3	4		7	4	4		2		その他４（サンドバッグ２，パンチダンパー）	41
油送船	14	3	8	1	8		1	4	7	1		1		その他８（バレーボール，ボディビル，フリーテニス）	42
その他	4		1		1			3	1					その他５（バレーボール）	11
計	56	14	41	12	16	10	2	20	14	9	3	6	2	その他２１	170

F　今後の課題

以上のことから，船員が，航海中の余暇活動として実施したいと希望している「水泳」と「卓球」について，そのより充実した具体化をはかるために，次に考察を加えてみる。

「水泳」「卓球」を実施するためには，当然のことながら，「プール」「卓球室又は体育室」という，いわゆる施設，器具が必要である。ところが，今回対象となった２１社５６隻（調査船６０隻のうち不備をのぞく５６隻）について運動の設備について調べてみると第７表のごとくであり，少なくとも体育室とよべるスペースをもった船はわずか６社６隻，プールは１社２隻である。前者は１隻づつではあるが６社にあるところから，今後各社各船に備えつけられる可能性も考えられる。後者のプールは１社しかないのでまだ各社の傾向とはいえない。一方たまたま機会のあったノルウェー船３隻，オランダ船２隻について同様の調査をしてみると第８表のごとく，プールは両国とも５隻すべてに備

第7表　体育室・プール・ゴルフネットの設備

船　種	調査隻数	体　育　室	プ　ー　ル	ゴルフネット	計
貨物船	25	1隻（5 m×5 m）（前隔離病室）			1
専用船	13	2隻（4 m×3 m）（作業員室代用）		1隻	3
油送船	14	3隻（7 m×8 m）（5.5m×10m）（10 m×7 m）	1隻（7.2 m×4m×1.5 m）	3隻	7
その他	4		1隻（4.6 m×3.3m×1.5m）		1
計	56	6隻（6社）	2隻（1社）	4隻（3社）	12隻

第8表　体育室・プールの設備

国　籍	船　名	体　育　室	計	プ　ー　ル	計
ノルウェー	Bh丸	8m×11m	3	7m×5m（海水）	3
	Bc丸	11m×6m		8m×5m（海水）	
	Bt丸	4.5m×7.5m		4m×6.5m（海水）	
オランダ	Sh丸	なし	0	4m×5m（海水）	2
	T　丸	なし		3m×5m（海水）	

えつけており，またノルウェー船はすべて体育室をもっていることがわかった。ノルウェーは自国以外の外国の港に船員のための"よろずサービス"機関として政府がとりくんでおり，日本には横浜にノルウェー政府福祉局（Norwegian Govt. Seamen's Club）がある。ここで年間延800隻のノルウェー船について体育面，文化面のあらゆる船員の要請に答えるべく局員3人で訪船連絡指導を行なっている。また横浜には立派な室内プールをもっている。このようにノルウェーは船員と陸を結ぶものとして政府のサービス機関があり，ここを船員が十分活用し利用しているからこそノルウェー政府福祉局が外国各港に次々と設立されるのであろう。

そこで，これからの日本の場合を考えると，まず，日本の船も，「卓球室又は体育室」（船内体育室について：海上労働調査報告第20集8編を参照）と「プール」の設置をし，前にのべたように，これからの船員が，余暇をより計画的に，積極的に使えるための一つの対策とすることが必要であろう。そして，次に，船と陸を結ぶサービス機関の設立に真剣にとりくむべきであろう。

それには，たとえば，仮称「船員レクリエーション・センター」に連絡をすれば，○月○日に行われるであろうハイキング，運動の試合，映画，音楽会，魚つり情報，ダンスパーティ等のプログラムを知ることができたり，又航海中の催しもののプログラム例や○国の○船に某趣味の同好者が乗船していること等がわかる，といった船員のためのセンターの設置がのぞまれる。そしてそのセンターの下部組織として全国の船員福祉施設を含むことが考えられ，個々の船員福祉施設のマスター（職員）が定期的に催される仮称「船員レクリエーション・センター」の講習会に参加して，逐次新しいプログラムのサービスを船員に提供することが可能であろう。そして仮称「船員レクリエーション・センター」はＹＭＣＡ等と提携をすれば外国の港においてもＹＭＣＡのブランチを通じて上記のような情報を入手することが可能である。もちろん上述したような例はそれ以外にも多々考えられ，最も船員に適した具体的な構想を実現していく必要があろう。

Ｇ　おわりに

外国航路に従事している２１社５５隻の船員について，航海中の余暇時間に何が多く行われているかについてアンケート調査により知ることができた。その結果，余暇時間の多くは読書，雑談，ごろ寝（休息）につかわれており，その傾向は１９６４年の調査と同じであり，余暇時間の計画性のない使い方が推察できた。また運動については軽い体操が多く実施されており，希望種目としては水泳，卓球があげられている。今後は航海中の船員の余暇生活にもう少し計画性をもたせる必要があり，その対策として仮称「船員レクリエーション・センター」，船内体育室（卓球室），プール等を考える時期にあると考察できた。（広田弥生）